

みんなの協力で、子どもたちが心のケアを受けられる社会へ。



サポチル

認定NPO法人 子どもの心理療法支援会

サポチル関東 事務局

〒330-0835 さいたま市大宮区北袋町1-332

第一経営ビル1階 こうめま心理相談室内

E-mail: info-kanto@sacp.jp

Twitter: [@info_kanto](https://twitter.com/info_kanto)

URL: <http://sacp.jp/>

サポチル関東 主催

子どもの精神分析的心理療法・臨床セミナー In 関東2022

7年目となるサポチル関東の臨床セミナーは、「子どもの精神分析的心理療法・再考 —今だからこそ振り返り、問い直し、改めて考えてみよう！—」というテーマで開催いたします。私たちは、コロナ禍によって、これまで当たり前と考え、行ってきたことが、実は当たり前ではないかもしれないことをつきつけられる経験をしているように思います。そして、あらゆる臨床家が自らの臨床を見つめ直すことに迫られ、再考する必要があるに違いありません。それは子どもの精神分析の実践においても例外ではありません。私たちがこれまで学び、実践してきたことをこの機会に改めて問い直し、子どもの精神分析的な心理療法、あるいは精神分析的臨床の意義を再発見・再発掘できればと思います。

2022年度 臨床セミナー

子どもの精神分析的な心理療法・再考 —今だからこそ振り返り、問い直し、改めて考えてみよう！—

第1回 2022年4月10日(日) 13時～17時

「設定・再考—コロナ禍における分析設定の維持と修正」

講師: 平井 正三 先生 (御池心理療法センター)

話題提供者: 阿久津章乃 先生 (ファミリーメンタルクリニックまつたに)

第2回 2022年6月12日(日) 13時～17時

「技法・再考—子どもが自己分析するということ」

講師: 松本 拓真 先生 (岐阜大学教育学部)

話題提供者: 中島 良二 先生 (調布学園)

第3回 2022年8月28日(日) 13時～17時

「協働関係・再考—子どもの心を育むための多職種連携」

講師: 鈴木 誠 先生 (くわな心理相談室)

話題提供者: 小笠原貴史 先生 (こうめま心理相談室)

第4回 2022年10月9日(日) 13時～17時

「身体性・再考—感染予防対策下での心の接触をめぐる」

講師: 飛谷 渉 先生 (大阪教育大学保健センター)

話題提供者: 廣内雄一郎 先生 (新百合ヶ丘こころのクリニック/社会福祉法人六踏園 皐月/東京都立学校SC)

第5回 2022年12月11日(日) 16時～20時 ※時差の関係上、通常と時間が異なりますのでご注意ください。

「ローカリティ・再考—子どもの心理療法におけるローカリティ」

講師: 西村 理晃 先生 (19 Bloomsbury Square Psychoanalysis and Psychotherapy/ロンドン医療センター/Camden Psychotherapy Unit)

話題提供者: 吉沢 伸一 先生 (ファミリーメンタルクリニックまつたに)

★第5回の講義に限り、希望者には録画視聴が可能です。

第6回 2023年3月5日(日) 13時～17時

「乳幼児観察・再考—コロナ禍における家庭訪問による観察の意義」

講師: 脇谷 順子 先生 (杏林大学保健学部)

話題提供者: 橋村 和 先生 (吹田市立教育センター)

対象者: 臨床心理士、公認心理師、医師、それに準ずる専門家、大学院生・研修生

定員数: 80名

受講料: 40,000円(全6回)

会場: web会議アプリ「Zoom」によるオンライン開催 ※2022年度は会場参加はありません。

■セミナー内容

第1回 2022年4月10日	設定・再考 —コロナ禍における分析設定の維持と修正	平井正三先生
<p>コロナ禍は、心理臨床全般において対面を中心とする従来のやり方を変えていかざるを得ない状況を作り出しました。とりわけ分析臨床では、「治療構造」や「設定」の考えがその基盤になっていることもあり、多くの臨床家は戸惑い苦慮してきたのではないかと考えられます。一方、コロナ禍とは関係なく、子どもと家族の従来の分析臨床の「定番」の構造・設定である親子並行面接を導入することが困難もしくは望ましくないケースも年々増えています。こうした状況において、本セミナーは、子どもと家族の分析臨床における設定の問題をもう一度考え直していく機会にしたいと思います。</p>		
講師の 所属・略歴	京都大学教育学部博士課程指導認定退学、1990年～1997年タヴィストック・クリニック児童家族部門留学、児童青年心理療法士資格取得。京都光華女子大学助教授などを経て、御池心理療法センター代表、大阪経済大学客員教授、認定NPO法人子どもの心理療法支援会理事長、精神分析的サイコセラピー・インスティテュート大阪(IPPO)会長。	
第2回 2022年6月12日	技法・再考 —子どもが自己分析すること	松本拓真先生
<p>精神分析的心理療法の目標は、自己分析が可能になることが主なものとして挙げられるが、子どもにとって自己を分析できるようになるとはどのようなことなのだろうか。自己とは何で、それを自分が分析できるようになるというのはどのようなことなのだろうか。意識性や身体性と深く関わる、この古くて新しいテーマを現代の社会的状況との関係で考察してみたい。これは同時に精神分析は誰のためにあるのかという問いも喚起することだろう。</p>		
講師の 所属・略歴	岐阜大学教育学部准教授。サポチル認定「子どもの精神分析的心理療法スーパーバイザー(コンサルタントセラピスト)」。近著「自閉スペクトラム症を抱える子どもたち:受身性研究と心理療法が拓く新たな理解」(金剛出版)。	
第3回 2022年8月28日	協働関係・再考 —子どもの心を育むための多職種連携	鈴木誠先生
<p>開業でのセラピーを除けば、分析的臨床家も、多かれ少なかれ、多職種と連携したり、チームの一員として協働する必要がある。また近年『連携や協働』を迫られる機会が増えてきている。しかし連携やチームの協働がまともに機能していない状況を目にすることが多いと、面接室でのセラピーのクライアントとの関係性に専念したい臨床家にとっては、いささか厄介なことでもある。しかも連携や協働がうまくいかないと、セラピーにも悪影響が出ることは避けられない。</p> <p>一体、『協働関係に何が起きているのか?』このテーマを共に考える機会にしたい。</p>		
講師の 所属・略歴	名古屋大学医学部精神医学教室卒後研修修了。現職、くわな心理相談室主宰。日本精神分析学会認定心理療法士・スーパーバイザー。訳書に「ワーク・ディスカッション—心理療法の届かぬ過酷な現場で生き残る方法とその実践」(岩崎学術出版社)	

<p>第4回 2022年10月9日</p>	<p>身体性・再考 —感染予防対策下での心の接触をめぐる—</p>	<p>飛谷渉先生</p>
<p>コロナ・パンデミックにより私たちは、面接室での手指消毒やアクリル板の設置に始まり、オンライン・セラピーへの移行にまで至るセッティングの変更を強いられました。こうした経験が私たちにもたらしたのは、あらためて心の接触とは何かについて考えることでした。それは、どのような物理的距離まで心の交流が可能なのかという「心の磁場の検証」といってもいいかもしれませんが。このことはコロナ禍ばかりでなく、インターネットの普及やSNSによってリモート化した交流が日常となっていたデジタル・ネイティブの心身体験と様々な点で一致します。こうした発想を踏まえて本講では、身体と心との関係が変容すること、つまりデジタル化とコロナ禍がもたらす「離人症心性の蔓延」について考えてみたいと思います。</p>		
<p>講師の 所属・略歴</p>	<p>大阪市立大学医学部医学科卒・同大学院卒。精神科医、医学博士。2004-2008年タヴィストック青年期部門留学。大阪教育大学保健センター准教授。日本精神分析学会認定スーパーバイザー。「エディプス・マターズ—現代クライン派臨床理論から考える心のインフラ」: 岩波書店「思想」2021年8月号『特集フロイト・ルネッサンスⅡ』</p>	
<p>第5回 2022年12月11日</p>	<p>ローカリティ・再考 —子どもの心理療法におけるローカリティ—</p>	<p>西村理晃先生</p>
<p>私達が子どもの心理療法を行っているグローバル化が加速する現代社会は多様化というより無秩序化、表層化といった様相が濃く現れている。これは我々の社会におけるローカリティの喪失と密接に関わる事態であり、家族関係の無秩序化、希薄化、表層化はそのあらわれと考えることができるだろう。このような現代社会において、エディプス・コンプレックス、内的対象関係(内的家族関係)、転移／逆転移といった心のローカリティに基づく子どもの精神分析臨床はどのような意味を持つのか、持ちうるのか、あるいはもはや持たない可能性も含めて参加者のみなさんと一緒に考えていきたい。</p>		
<p>講師の 所属・略歴</p>	<p>大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得退学。2014年タヴィストッククリニックにて児童青年心理療法士取得。2020年英国精神分析協会にて精神分析家取得。現在、19 Bloomsbury Square Psychoanalysis and Psychotherapy、ロンドン医療センター、Camden Psychotherapy Unitにて子どもと大人の精神分析臨床を実践。サポチル訓練コース担当理事。</p>	
<p>第6回 2023年3月5日</p>	<p>乳幼児観察・再考 —コロナ禍における家庭訪問による観察の意義—</p>	<p>脇谷順子先生</p>
<p>新型コロナウイルス感染症により、身体発達が著しく、また、人とのやり取りの中で、さまざまなことを体験的に学ぶ乳幼児期に人との直接の接触が制限されたことは、乳幼児にどのような影響を与えたのだろうか。また、共同養育の機会を大きく制限された母親や父親たちの経験はどのようなものだったのだろうか。乳幼児と親にとっての、また心の発達にとっての「人」、「身体」、「ふれあうこと」の意味をあらためて考えてみたい。</p>		
<p>講師の 所属・略歴</p>	<p>2000年～2011年タヴィストックセンター児童家族部門留学、2009年児童青年精神分析的な心理療法士資格取得、2014年児童精神分析的な心理療法専門家博士号取得。杏林大学保健学部、認定NPO法人子どもの心理療法支援会理事。</p>	

セミナー申込について

■定員数: 80名

■対象者: 臨床心理士, 公認心理師, 医師, それに準ずる専門家, 大学院生・研修生

■受講料: 40,000円

■ 申込み方法

1. 下記、QRコードを読み取り、手順に従い、申し込みください。

※オンライン・セミナーでは、守秘義務に関する取り決めに同意していただく必要があります。

同意いただけない場合、参加することはできません。詳しくは申し込みフォームにてご確認ください。



QRコードを読み取ると、専用の申込フォームが開きます。
手順に従い、必要事項を入力してください。

QRコードが読み取れない場合、以下のURLにてお申し込みください。

<https://forms.gle/udb6UsWvRrBXrBoAA>



2. 参加申込メールの確認後、事務局より、「申込受付メール」にて振込先口座および振込期日をお知らせします。

◆お振込 受講料40,000円

※振込期日までに未納の場合、お申込みはキャンセルとして取り扱わせていただきます。

※お振込み後、受講生の事情でキャンセルする場合、受講料の返金には応じられません。



3. 事務局より、「振り込み確認＋受講受理完了メール」を送信します。

申し込み締め切りは2022年2月28日(月)

■ お知らせ

サポチル関東のTwitter (@info_kanto) でも研修情報を発信しています。ぜひご覧ください！

◆研修ポイントについて

本セミナーは、日本臨床心理士資格認定協会の「定例型研修会(4ポイント)」として承認されており、7割以上出席の方に「研修証明書」を発行します。

◆緊急時の連絡について

「不測の事態などによりセミナーを中止(延期)せざるを得ない場合には、一斉メールにてお知らせ致します。なお緊急時のご連絡につきましては、サポチル関東のTwitterアカウントでも発信致しますので、ぜひご活用ください。

(申込時の登録メールアドレスは、日常的に確認している連絡先をご入力ください。携帯メールはご遠慮ください)

お問い合わせ先: info-kanto@sacp.jp